

D.M.D. 開発の視点と活用法について

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）・後藤啓光（同）

はじめに

周知のように花粉ダイアグラム作成ソフトには「Tilia」、「Psidium」、「Well Plot」などがあり、世界的に使われている。しかし、これらの使用頻度は日本に限ってみれば高くなく、各研究者、あるいは各ラボ毎に自作のソフトを使用しているのが現状である。この原因には、当然の事ながら「Tilia」などのソフトが日本語に対応していないことが上げられる。また入手方法が煩雑なことも、国内での使用が少ない原因であろう。

D.M.D.システムは、微化石ダイアグラム作成と、データ管理の簡略化を目的として、2001年に文化財調査コンサルタント株式会社が公表したシステムである。

花粉をはじめとする微化石ダイアグラムの作成には、現在でも多くの研究者が少なくない時間をかけている。

また現在実施されている花粉をはじめとする微化石分析の多くが、発掘調査に伴い教育委員会からの委託を受けている実情を考えると、氾濫する様々なデータ書式を統一する必要も指摘される。

システムの内容

図1にD.M.D.システムの構成を示す。

データ入力はMicrosoft Excelで行い、D.M.D.（ダイアグラム作成ソフト）でダイアグラムを作成し、印刷あるいは画像ファイルとして保存（ファイルの保存形式は、GIFを除く一般的なファイル形式で可能。）する。出力した画像ファイルは、必要に応じて市販の画像処理ソフトで細部の修正を行うことができる（この時点では、Macの使用も可能）。

D.M.D.システムの活用

「D.M.D.」の「花粉」版では、簡単な操作で「百分率算出の基数」を変更（「木本」、「木本+草本」、「木本から特定の種を除く」）することができる。当然これらの変更に伴う作図も瞬時（パソコンの能力に左右されるものの）に可能である。また柱状図を同時に描くなど「作図」の省力化に徹している。このことにより、考察により多くの時間を割くことが出来る。

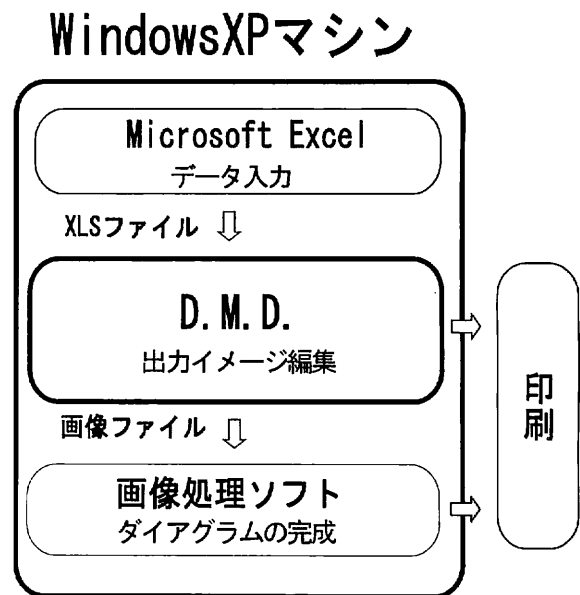


図1. D.M.D. システムの構成